

学科	開催日	時間	教室	科目名	担当者名	授業内容
看護	7月23日	10:40～12:10	図書館	地区活動論	教授 布花原 明子	保健師は、地域を担当し、その地域に暮らす人々(住民)が、生涯を通じて健康に生活できるよう支援します。 家庭訪問、健康教育、健康診断などを行い、住民が自ら健康課題を解決できるよう、個々の特性に応じて保健指導を行います。また、地域全体の健康課題を解決するために、地域に健康づくりや子育て支援のネットワーク・地域ケアシステムをつくり、住民組織や関係機関と連携・協働します。本授業では、地域を対象とした公衆衛生看護の方法を解説します。実務家教員として行政保健師の経験を活かして授業を行います。
看護	7月23日	13:00～14:30	6209	教育方法論	教授 新谷 恭明	授業は教科に関する知識があれば教えられるわけではない。そのために教育方法の理念、理論そして技法が研究されてきた。教育方法の基本的な考え、教育方法がどのように考えられてきたのかを学ぶ。そして現在それらの知見を踏まえた上で学習指導力の基本を身につける。
看護	7月23日	14:40～16:10	331	公衆衛生看護方法論 I	教授 布花原 明子	地域の健康課題を解決するための公衆衛生看護の方法について、個人/家族・集団・組織を対象とした支援方法と技術を解説する。地域の最小単位としての個人/家族、小集団(グループ)、組織を連動して継続的に支援する過程や支援方法の組み合わせについても解説する。実務家教員として、保健師の経験を活かして、現場での支援方法の工夫など、実践例を取り上げながら授業を進める。
看護	7月23日	14:40～16:10	6209	教職概論	教授 新谷 恭明	教職を志す者にとって必要な知見を身につける。教師をとりまく現状、教職の意義や職務内容、教員養成の歴史、教師に求められる資質、能力、教師の仕事と責任などについて基本的な理解を深めるとともに、教師としての目的意識、使命感などの形成をはかり、今日求められる教師のあり方を解明する。
看護	7月23日	14:40～16:10	741	看護研究の基礎	教授 溝部 昌子 准教授 小野 正子 准教授 石井 美紀代 講師 吉原 悦子 講師 財津 倫子 講師 中原 智美	研究的思考に基づいた看護実践に必要な研究手法について実践的に学ぶ。リサーチクエスチョンのたて方、情報検索、研究倫理、研究計画、研究実施、データ収集、結果のまとめ、考察、論文文化の一連の流れを体験し、看護における課題解決の意義を学ぶ。
看護	7月23日	16:20～17:50	751	疾病学各論 I	教授 浅野 嘉延	疾病学各論は看護師の業務に直結する非常に重要な授業である。疾病に関する十分な知識がなければ、臨床現場で看護を行うことはできない。この授業では、主要な疾患の概念、疫学、症状、検査所見、治療法、予後などについて解説する。高度に専門化した医療現場でも対応できるように、各分野の専門家が臨床経験をもとに解説する。 疾病学各論 I で解説するのは、内科疾患(循環器疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、代謝疾患、腎臓疾患、血液疾患、神経疾患、感染免疫疾患)、外科疾患、整形外科疾患、産婦人科疾患、麻酔科である。
学科	開催日	時間	教室	科目名	担当者名	授業内容
看護	7月24日	9:00～10:30 10:40～12:10	6201	老年看護学概論	教授 溝部 昌子	老年看護の対象としての高齢者の生物学的な老化と主観的意味を理解することを主眼とし、高齢者の生活実態、環境、施策、仕組みなどの基礎的事項を学ぶ。老年看護学は、生物医学の科学的根拠に依拠するだけでなく、社会の変化、人々の価値観、それぞれの文化的指向により変化するもので、将来にわたって老年看護で役割を果たしうる基本的態度を養うことが求められる。実務家教員として高齢者看護・介護の実務経験のある教員が、実践における知識や理論の活用例を概説し、段階的に目標設定した協働学習をすすめる。最終的には学生自身が老年看護における役割を見出すことを目指す。
看護	7月24日	13:00～14:30	6201	地域連携協働支援論	講師 吉原 悦子	地域で生活する人々のいのちと健康を支えるため、看護が提供される暮らしの場を理解する。地域をベースにしたケア体制の仕組みを学び、保健、医療、福祉、教育の専門職の連携・協働のあり方を、ボランティア、住民活動などの地域のインフォーマルな活動も含めて解説する。
看護	7月26日	10:40～12:10	6206	感染と免疫	教授 目野 郁子	感染症は、病原体(細菌・ウイルス・真菌・原虫・プリオン)が原因となり生じる疾病である。これらの病原体の個々の性状について感染源、感染経路、病原因子、病態・臨床像について解説をする。また、疾病が生じるメカニズムや感染症の種類、感染症に対する治療法や予防法についても解説する。生体には病原体を含む非自己性の異物が侵入すると免疫システムが働く。講義ではこの免疫現象としての生体防御機構と免疫異常について解説する。
看護	7月26日	13:00～14:30	6206	看護形態機能学 I	准教授 笹月 桃子	健康の保持と増進を目指し、病を抱える対象となる人の日常生活を支える役割を果たすためには、人間の身体に生じている状況を理解した上で、その身体に適した援助を実践することが重要です。看護形態機能学では、器官系統別にだけでなく、日常生活の行動から身体を把握する視点を通して、人体の構造と機能についての理解を深め、看護に必要な基礎的な知識を習得することを目的としています。 看護形態機能学 I では、日常生活の中で最も馴染みの深い、栄養、呼吸、循環、内臓機能の調節、その正常な生体機能について解説します。

学科	開催日	時間	教室	科目名	担当者名	授業内容
看護	7月26日	13:00～14:30	331	家族と健康	准教授 石井 美紀代	社会の変化とともに家族のあり方も変化している。本科目では、看護の対象である家族の機能と健康について解説する。家族は社会の一単位として位置づけられているため、基本的な家族の概念や家族形態と家族機能の変化など、社会との関係で紹介する。また、家族看護実践の基盤となる家族システム理論、家族発達理論、家族危機理論について解説し、家族の健康問題と援助の方向性について家族看護過程と結びつけながら教授する。
看護	7月26日	14:40～16:10	6206	リハビリテーション看護学	准教授 高橋 甲枝 講師 財津 倫子	急性期病院にて看護師として実務経験を有し、脳神経外科、整形外科、一般外科等における臨地実習の指導経験をもとに講義を行う。 本科目では、リハビリテーションの定義と歴史、医療ならびに社会におけるリハビリテーションの位置づけについて、解説する。生活の再構築を必要とする対象とその家族の特性を明確にし、疾病、治療、障害が患者及び家族に及ぼす影響について解説する。その上で、障害を抱えた患者・家族の特徴を理解し、残存機能を最大限に活用して日常生活の自立、社会復帰に向けての対象と家族への看護のあり方を解説する。また、リハビリテーション演習を行う。
看護	7月26日	16:20～17:50	331	地域連携協働支援論	講師 吉原 悦子	地域で生活する人々のいのちと健康を支えるため、看護が提供される暮らしの場を理解する。地域をベースにしたケア体制の仕組みを学び、保健、医療、福祉、教育の専門職の連携・協働のあり方を、ボランティア、住民活動などの地域のインフォーマルな活動も含めて解説する。